

「Come on Next Season !」



初参加で初優勝！ #15

世界的なトピックスはこの冬に行われたフィギュアの連続金メダル、羽生選手すごかったですね！

しかしそんな冬の記憶が彼方に追いやられるほどの暖かさ、いやすでに夏日という、スパ西浦では11年目を迎えたの2018K 耐久/GT 耐久東海シリーズが開幕。気候にも負けないアツ〜い走りを見せてくれるこのシリーズ、新たなシーズンを待っていたチームが集結。

「ENクラス」1C、2C、3C、OPのいずれかの車両規則に合致する車両で、チームの自主申告制で参加が可能なクラス（アンダータイム制あり）

初心者やカムバックチーム対象に始まったEN(エンジョイ)クラス、今年が3シーズン目、昨年は第2戦と第4戦が成立した、今年の開幕戦にも3チームが参加しクラス成立。

■予選

予選トップは#15「ルノー豊川ルノークリオ」1' 13.492、地元の豊橋ライオンズクラブの仲間たちとの参加とのこと、初参加ということもあり「まずは楽しんで走りたい」と意気込みを語る。

2位#79「NAC ヴィッツ」1' 13.982、メンバーは全く同じではないものの昨年も出場しクラス王者となっているチーム。

3位#123NATC マーチ」3' 04.727、少しトラブルで出遅れたか。さて、マシンからおわかりのように日産愛知自動車大学のチーム、こういう活動が学校でできるのも自動車系ならではの、ちなみに#79のヴィッツも中日本自動車短期大学という自動車系の学校。

■序盤

予選出遅れで心配した#123NATC マーチ」が、決勝では快調な走りを披露、序盤からトップに立ちレースを引っ張る。

続いてはベテランチームの#15「ルノー豊川ルノークリオ」、最初は廻りのペースを気にする素振りもあったが、だんだんと慣れてきたようで、タイムも1分10秒台に入れてきた。

3位走行#79「NAC ヴィッツ」、こちらもこれまでのところ順調のようだ。

■中盤

波乱は中盤に起こった。まずまず順調に来ていたと思われた、#123NATC マーチ」序盤からトップを走っていたが、ガス欠と思われる症状でピットイン。すぐさまチーム員（もちろん学生さんたち）がマシンをチェック。燃料ポンプあたりを打検してみるが、どうやらこれが原因で燃料が来ていない事が判明。スペアパーツは持ってきていないとのことなので、現状で復帰できるかやってみることに。

これでトップに立ったのは#15「ルノー豊川ルノークリオ」、マシン自体はしっかりと作ってあるようで、コースとレースに慣れたことでタイムアップ。07秒台に入れた快調に飛ばす。

22位は2Lap 差で#79「NAC ヴィッツ」が追いかけてレースは終盤に向かう。



開幕戦は2位 #79



序盤好調だったが #123



Race Report

GT CAR PRODUCE

■終盤

終盤でもトップを守る#15「ルノー 豊川ルノークリオ」じわじわと差を広げ、残り1時間の時点では3Lap 差とする。

2位#79「NAC ヴィッツ」はこれ以上離されると厳しくなってくるが…

中盤燃料トラブルでピットに入っていた#123NATC マーチ」だったが、結局直らず57Lap というところでリタイヤ届を提出し戦列を去ることに。

■最終結果

中盤からトップに立った#15「ルノー 豊川ルノークリオ」はその後も差を広げ、129Lap で勝利、見事初参加で初優勝！

2位は#79「NAC ヴィッツ」で122Lap、1分10秒を切ってきたが、速さの点で#15ルノークリオに及ばなかったか。

アンダータイムもなく順位は確定、完走はこの2台という結果。

■総評

幅広い年代が参加したこのレースだが、結果はともかくこういう場所でも汗を流せるのは本当に良いこと。

学生チームで、リタイヤに終わった#123も途中のトラブルでは、指導する教官のアドバイスはあるものの、自分たちの力でトラブルシューティングや対処法を学ぶ良い機会だと実感。手前味噌ではあるがこのイベントを様々な方法で活用する良い見本だと思う。



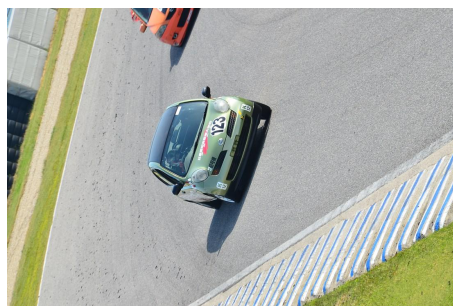
必死の修復も実らず



急遽冷却性能をアップ



地元の仲間達と参加



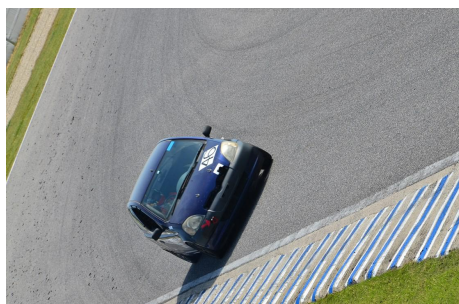
EN クラス



開幕戦はほぼ完璧！ #110



CLN チームは#39 が 2 位



唯一のリッターカーが 3 位 #46



#62 は 1+2C 初戦を 4 位で終える



「1 + 2 C」クラス（1500cc 以下の NA 車と、1200cc 以下の過給機付き車、1501cc～1850cc の NA 後輪駆動車のクローズドクラス）

18 年シーズンの開幕戦に集まった 1+2C クラスは過去最大タイの 12 台、昨年から有力チームが戦いの場をこのクラスに移したこともあり、より盛況なクラスとなった。今年も#62 のカーライフ名古屋チームが、3C のシビックからヴィッツに変更しこのクラスに殴り込み、これでまたひとつチャンピオンチームがやってきた。さあ 12 台気合を入れて紹介していきま Time !

■予選

予選トップは#110「アライメント浜松スィフト」1' 02.591、おいおい開幕戦から 02 秒台入れてきましたよ、去年獲れなかったチャンピオンを狙いにきたぞ。

2 位#81「眠らぬ猫ロードスター」1' 03.364、テンハチとはいえロードスターとしてはかなりの速さ、今レースの注目の 1 台。

3 位#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」1' 03.424、カーライフ名古屋チームのうちの 1 台 1500 ヴィッツ、NCP91 なので 2 代目だ。

4 位#4「ミルサンヌロードスター」1' 04.536、こちらは初代テンロクだ。

5 位#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」1' 05.767、昨年の 3COP クラス初代チャンピオンが新クラスに参戦、新たな挑戦。

6 位#70「ウエリースシビック GT」1' 06.056、ベテランチームだが今年はメンバーが変わり親子でドライビングとのこと、いいですね。

7 位#222「A.R.C.Kii Fit」1' 06.684、チーム名は違うがマシンは昨年の#222 の箱替えとのこと、黄色のフィットってそんなに無いと思うのですが～

8 位#67「みかんちゃんデミオ」1' 06.971、このマシンは久しぶり。

9 位#9「しんかい 2500 スィフト」1' 07.833、こちらは昨年 EN クラスでタイトルを取り、1+2C へは久しぶりの出場。

10 位#870「MSCJ 東海マーチ」1' 08.018、このクラスでは唯一の K12 マーチ。

11 位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」1' 08.058、今レース唯一のリッターカー、ピット回数は一回少ない 3 回。

12 位#802「navy0802 MR-S」1' 08.148、2016 年以來の参加、そのときは雨の中難しい MR を駆って完走。ハイオク仕様の E/G に載せ替え、LSD 装着とマシンのセットアップを進めてきた。今日はポイントをぜひ。

以上 12 台、1+2c クラスとしては史上最多数のバトルが始まる。

■序盤

序盤で早くもこの日の最速 Lap1' 03.308 を叩き出し、レースを引っ張る。優勝への並々ならぬ意欲がひしひしと感ぜられる走りを見せる#110「アライメント浜松スィフト」。追いかけるのは#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、こちらも 03 秒台に入れて必死の追撃。3 番手#81「眠らぬ猫ロードスター」、こちらも 03 秒台と、上位陣は早くもヒートアップ。

4 位#4「ミルサンヌロードスター」からは第 2 集団、5 位 62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」、トップ戦線に抜け出すチャンスを伺う。

6 位#70「ウエリースシビック GT」、7 位#222「A.R.C.Kii Fit」、8 位#67「みかんちゃんデミオ」、9 位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」と続くこの辺りも混戦模様。

さらに 10 位#9「しんかい 2500 スィフト」、11 位#802「navy0802 MR-S」、12 位#870「MSCJ 東海マーチ」。

上位陣、表彰台、さらにはどのポジションでも僅差の争いが見られ、本当に濃いバトルが序盤から見られる。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

折返しを過ぎて、#110「アライメント浜松スィフト」がトップを行く、周回数は74Lapだ。2番手は#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」73Lap、マシンのには昨年から変わってないとのこと、「#62 とともに 1-2 を狙います」とコメントだが、まずまずの位置につける。

3位は#4「ミュルサンヌロードスター」72Lap、続いて4位に#81「眠らぬ猫ロードスター」とここはロードスターが表彰台争い。

5位に#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」71Lap、「コーナーリングはシビックより上」とチーム関係者もコメント、まだまだ秘めたるポテンシャルがあるか。

6位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」も71Lap、ここはヴィッツのバトル。ちなみに#46はなにか変わったところはの質問に「気合！！」キリッ。

7位#70「ウエリースシビック GT」70Lapに8位#222「A.R.C.Kii Fit」69Lapと新旧ホンダ車が続く。

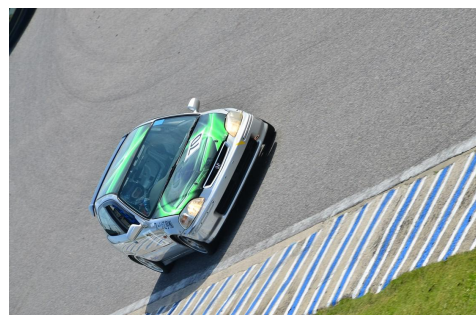
9位#802「navy0802 MR-S」69Lap、10位#67「みかんちゃんデミオ」68Lap、ポイント圏内の争いも激しくなってくる。

11位#870「MSCJ 東海マーチ」66Lapで、ポイントまではまだまだチャンスあり、12位#9「しんかい 2500 スィフト」52Lap、ピットでブレーキ交換なども行った模様で、戦列に復帰。

その直後、4位を走っていた#81「眠らぬ猫ロードスター」にアクシデント発生、ミッションがブローし残念ながらリタイヤに。



NA6 が 5 位 #4



親子で参加 6 位 #70



黄色のフィットは 7 位 #222

■終盤

ゴールまでは残り1時間、#110「アライメント浜松スィフト」は首位固めに入る。この時点で後続に4Lapの差をつけて、あとはコントロールか。

一方ここで離されたくないのは#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、後ろから迫ってくる#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」のことも気になる。

表彰台に手がかりそうな4番手以下も最後の争い。4位#70「ウエリースシビック GT」、5位#4「ミュルサンヌロードスター」、6位62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」あたりにはまだチャンスありか。

少し離れて7位#222「A.R.C.Kii Fit」、8位870「MSCJ 東海マーチ」、9位#802「navy0802 MR-S」、10位#67「みかんちゃんデミオ」とポイント圏内は相変わらずこちらも混戦模様。

序盤トラブルで遅れた#9「しんかい 2500 スィフト」、持ち直して完走を狙いたい。



序盤から作戦通りか



オレンジはデミオだ 8 位 #67

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

12 台が集まったビッグな戦い、最後までトップをキープした#110「アライメント浜松スィフト」が快勝、総合優勝でまずはシーズン初勝利を挙げた。

2 位は#39「COCKPIT & CLN ヴィッツ」、チームメイトとの 1-2 ではなかったが、しっかりとポジションキープで見事自己最高位を更新。

3 位#46「ボーイズヴィッツアンビシャス」、こちらは迫ってくる#62「ワコーズ☆CLN ヴィッツ」を約 5 秒差で振り切り、表彰台の最後の席をゲット。

一方#62 は惜しかった、チームメイトの表彰台は次戦以降へのお楽しみということに。

5 位#4「ミュルサンヌロードスター」、表彰台までは 1 Lap、6 位#70「ウエリースピック GT」、7 位#222「A.R.C.Kii Fit」と続く。

8 位#67「みかんちゃんデミオ」、9 位#870「MSCJ 東海マーチ」、10 位#802「navy0802 MR-S」とここまでがポイント獲得。

11 位#9「しんかい 2500 スィフト」一時はトラブルに遭遇したが、無事完走。

以上 11 台が完走、#81「眠らぬ猫ロードスター」がリタイヤという結果。



マーチは 9 位 #870



2 年ぶりの参加でポイント獲得 #802



フロントローを 1+2C が獲得独占



途中パッド交換もあったが 11 位完走 #9



1+2C クラスが総合チェッカー！！



予選 2 番手だったが、こちらは無念 #81



EN クラスチャンピオンからのステップアップ

■総評

12 台が集結した開幕戦、#110「アライメント浜松スィフト」が見事に勝利を掴んだ。これまで、OP クラスでは GA2 シティで、3C では AE111 レビンでタイトルを獲得しており、いわば 2 階級制覇王者。そして昨年からのクラスへとつり、いよいよ伝説の 3 階級王者への挑戦、レジェンドとなるか。

一方、ライバルと目されたのはカーライフ名古屋チーム、今レースでは 2-4 位という結果になったが 2 種類の世代の違うヴィッツを走らせともに上位にフィニッシュさせる辺りはさすがだ、このあとタイトル争いに加われば面白いぞ。このあたりはまさにチャンピオンズカーニバルといった豪華な戦いだ。

あとはリタイアに終わったが NB8 や、5 位に入った NA6 の各ロードスターの走りも楽しみ。

スィフト、ヴィッツ、フィット、デミオ、ロードスター、MR-S、シビックなど多彩なマシンが集まるのもこのクラスの魅力、#70 のように家族チームというのも面白い、11 年目新しいシーズンを迎えた GT 耐久東海シリーズ、どうか今年もよろしくお願いいたします。



テンハチだからゼッケン 81 なんですね



3 階級制覇に向けてまずは幸先の良いスタート



1+2C クラス



開幕ダッシュをかませるか！ #106



もう一つ UE に行きたいぞ！ #77



3 位表彰台 #22



最後はエンジンが… #405

世界の電山モデル

Pos	No.	Team	Driver	Lap	Laptime	トアとの差	Besttime
1	110	D&M スパイクアウト 106	鈴木 良佳	109	1'05'963	5 Laps	1'03'308
2	44	インフィニティー FX	佐々木 正志	104	1'08'243	6 Laps	1'05'702
3	4	ミューラックスロードスター	佐々木 正志	102	1'08'208	6 Laps	1'05'160
4	62	ウエリース ロードスター	宇江 佑輔	102	1'05'169	6 Laps	1'05'246
5	77	ウエリース ロードスター	宇江 佑輔	101	1'05'973	7 Laps	1'04'866
6	106	D&M スパイクアウト 106	佐々木 正志	101	1'05'140	7 Laps	1'04'571
7	35	COOKPIT&CLN	藤田 孝一	101	1'22'244	8 Laps	1'03'752
8	70	ウエリース ロードスター	宇江 佑輔	101	1'22'207	8 Laps	1'05'203
9	405	インフィニティー FX	佐々木 正志	100	1'14'350	8 Laps	1'04'027
10	222	A. R. C. K. I. F. I.	國枝 悠一	99	1'07'294	9 Laps	1'05'944
11	22	NAHレーシング S2000	藤田 孝一	99	1'05'515	10 Laps	1'04'311
12	802	ナッパ 0802 M4-RS	佐々木 正志	98	1'10'522	11 Laps	1'05'301
13	67	みかんちゃんデミオ	佐々木 正志	97	1'07'251	11 Laps	1'05'542
14	870	MSDレーシング	佐々木 正志	96	1'16'395	12 Laps	1'07'318
15	15	ルノー・スポール・ノーリオリ	藤田 孝一	96	1'11'547	12 Laps	1'07'364
16	75	ルノー・スポール・ノーリオリ	藤田 孝一	96	1'11'547	12 Laps	1'07'364
17	9	ルノー・スポール・ノーリオリ	藤田 孝一	96	1'11'547	12 Laps	1'07'364
18	81	ルノー・スポール・ノーリオリ	藤田 孝一	96	1'11'547	12 Laps	1'07'364
19	125	NAHレーシング S2000	藤田 孝一	96	1'11'547	12 Laps	1'07'364

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクロズドクラス）+「OP」クラス

クラス統合初年度となった昨年は、最終戦までもつれ込んだ後、#62 のカーライフ名古屋のシビックが逆転でチャンピオンとなった。その#62 が 1+2C へと移った今年の開幕戦、台数的には 4 台だが、その分濃密なバトルを期待したい。もう一度統合クラスのポイントをおさらいすると、ピットストップハンデとして OP クラスマシンは一回のピットストップ時間が 30 秒長い(回数同じ 4 回)という点。

■予選

開幕戦の予選は#106「D&M スパイクアウト 106」(3C)1' 03.827 がトップ、昨年の最終戦でブローしたミッションは治っているか。2 位は#405「インフィニティー FX」(OP)1' 03.906、日欧ホットハッチ対決。いつも「昭和の…」と言っていたが実は平成年式の FX(2 代目の 92 だからね)、平成最後の年に輝くか。3 位は#77「ウエリース ロードスター GT」(OP)1' 04.423、チーム UE の 1 台、今年の目標はなんといっても初優勝。これまでの最高位は 2 位。4 位#22「NAHレーシング S2000」(3C)1' 05.657、同じくオープンロードスターには負けられないぞ。

■序盤

序盤から火花を散らす日欧ホットハッチ、スタート直後にはターン 1 での接触なども見受けられたが、ともにレースには影響無いようだ。#106「D&M スパイクアウト 106」がまずピットストップを行って、トップには#405「インフィニティー FX」が立つ。2 位は#77「ウエリース ロードスター GT」、3 位#22「NAHレーシング S2000」と続き、ピットに入った#106「D&M スパイクアウト 106」が 4 位という序盤の展開。

■中盤

中盤ではトップはもちろんその次も入り乱れての混戦、タイムボード上は#77「ウエリース ロードスター GT」がトップを走行、まだ気が早い初優勝のチャンスもあるか…。2 位は同じくチャンス到来の#405「インフィニティー FX」、こちらもまだ気が早い…。3 位#22「NAHレーシング S2000」、こちらは上位の展開を見ながらといった感じ。4 位早めのピットを仕掛ける#106「D&M スパイクアウト 106」、勝負時は後半と睨んでいるか。

■終盤

レースは終盤 2 時間経過、トップは#77「ウエリース ロードスター GT」98Lap、2 位#405「インフィニティー FX」97Lap、ともに初優勝を目指す 2 チームがトップ争い。これまでにない新鮮な争い。3 位#106「D&M スパイクアウト 106」95Lap、きましたジワジワと。最終ステントまでにはトップ争いに加わるか。4 位#22「NAHレーシング S2000」、表彰台争いにはここは遅れることは許されない。さあ勝ちに行くには大切な時間を迎えた、このまま走りきれるか。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

初優勝に向かう#405「インフィニティー FX」にトラブル、ここまで快走を支えてきた名機 4A-G(しかも5V バージョン)がついに音を上げた。エンジントラブルで117Lap でリタイヤ…無念。

#77「ウエリース ロードスター GT」をかわして終盤でトップに立った#106「D&M スパイクオート 106」が 45 秒ほどの差をつけて見事優勝、鮮やかな逆転勝利。

#77「ウエリース ロードスター GT」はわずかに届かず、今回も 2 位。

3 位しぶとく走った#22「NAHレーシング S2000」、#405「インフィニティー FX」が完走扱いの 4 位という結果。

■総評

チャンピオンがクラス移籍という開幕戦は、予想以上の波乱の展開となった。初優勝に届かなかった 2 チームはより強くなって第 2 戦を迎えてくれることを臨む。そして混戦の中でもしっかりとレースを組み立てて最後はトップチェッカーという#106「D&M スパイクオート 106」はさすがというべき。

ちなみにレース中の最速タイムは#405「インフィニティー FX」が 03 秒台後半、あとの 3 チームは 04 秒台前半と、そこまで速さに差がなかったことがこの接戦になったと思われる。

これはまだまだ混戦のシーズンとなるに違いない。



3C&OP クラス



きっちりと勝利をゲット